

# 第 1 号議案

## 第 6 期事業報告及び決算の承認について

### 平成 30 年度

平成 30 年 7 月 1 日から令和元年 6 月 30 日まで

## 事業報告

### 当該事業年度における事業活動の概況

#### 1 主要な事業活動の報告

##### (1) 総務（会計・経理事務を含む）

決算・上半期、下半期監査の実施、定例・臨時取締役会の開催、会計事務・月次監査・構成員への支払事務等を定期的に処理しました。特に、構成員所得の最大化に向け、各作物の品代と交付金・地域資金の活用、地域特性に応じた作付けの各集落提案や団地化の推進を実施し、更なる法人化のメリット発揮に取組み実績を残す事が出来ました。

平成 30 年度は、米、麦、大豆、飼料用米等の合計販売金額は、72 百万円で、受け入れた交付金等は、447 百万円です。これらを原資に肥料、農薬、カントリー・コンバイン利用料等の生産費を控除し、圃場から生み出された収益の全額を作業委託管理料や農作業賃金等として総構成員配分額 303 百万円をお返しすることができました。

これに対し、役員報酬、職員の賃金、各オペレーターの保険料、集落運営費等の一般管理費については、本社が利用権を設定し経営する農地からの収益や、農作業受託料金、また、消費税の還付等の雑収益で賄うことができました。

決算では、利益の中から、将来の設備投資に備え、無税で積み立てることができる経営基盤強化準備金 3,000 万円を積み増すとともに、各集落の持株会から拠出いただいた資本金に対し、今年度も株主配当を予定しています。

## (2) 運営

取締役、各班長（栽培・作付・労務・機械）を中心とし、各集落単位での運営を基本とし集落間連携及び集落本社間連携を図りながら定期諮問会議（班長会議）並びに定期取締役会を執り行い、目前の課題や、中長期的な経営ビジョンを検討審議し、効率的な運営体制に取り組んできました。

食育体験としては、地域の園児・児童による稲刈り体験会を実施しました。幼稚園・保育園・小学校の関係者より御礼のお手紙等を頂き、毎年の恒例行事となっています。稲刈り体験会の時には、女性部会の皆様の多大なご尽力のお陰も有り、無事に執り行うことが出来ました。

【中止】※2月20日 麦ふみフェスティバル

※6月28日 田植え体験

## (3) 作付・栽培・実証研究

平成30年度作付実績は、小麦124.4ha、大麦116.3ha、大豆116.1ha、主食用米11.1ha、飼料用米62.5ha、WC S74.5haとなりました。

飼料用米は、主食用米より経済的な優位、早期の収穫が見込める等、管理し易い利点もあり、作付面積が増加しています。主食用米は、年々減少しているものの、今後、経済連との契約米を視野に入れつつ、良品質米に心掛け、作付を継続していきます。

大豆と飼料用米は、集落の垣根を超えたブロックローテーション体制に取り組んだ結果、作業効率の上昇に繋がり、また、団地化面積が増加し産地資金の対象面積増となり構成員配分額の増額にも繋がって来ています。

大豆の初期除草剤（乳剤）を当初小作地で使用し薬剤の効き目が良く、構成員にも徐々に利用が増えてきました。

麦に関しては、ネットワーク大津(株)にとってウェイトの高い作物なので、県やJA指導の下、多収性・品質改良等に努めました。

### [育苗施設]

令和元年5月から年6月までの2ヶ月間、育苗ハウスで、水稻の苗を約3,500枚栽培しました。作付の結果、種子に多少の「ムラ」は有りましたが、管理が行き届いていた事で、安心して納品できる良い苗が出来ました。

また、今回の水稻育苗は、(株)熊本野菜育苗センター(大津町岩坂)に試験的に夢あ

おぼ 5,000 箱の生産を委託しました。5 月 27・28 日に播種作業が行われ、綺麗に芽の揃った苗を納品して頂きました。

#### [実証試験研究]

ネットワーク大津(株)のスマート農業への取組や、低コスト生産実現の為に下記の実証試験を行いました。

1. 麦間直播実証試験(水稻の低コスト生産)

試験期間は、平成 30 年度で終了となりました。

2. 全国農業システム化研究による「水田における土地利用型作物の生産効率向上に関する実証調査」

今年度は、スマート農業を見据えた播種作業から収穫作業まで一連の作業が出来ました。しかし、雑草処理等で課題も多く、今年度も継続する事となりました。

#### (4) 自給飼料活用型 TMR (混合飼料) 供給事業

平成 30 年 10 月より飼料加工場新築工事が始まり、平成 31 年 3 月末日に竣工、同年 4 月 16 日より製造を開始しました。

製品については、水の恵み TMR1 号(繁殖用)と水の恵み TMR2 号(肥育前期用)の 2 種類と試験用 TMR の 3 種類を生産しており、試験用 TMR については熊本県農業研究センター草地畜産研究所から依頼を受けた寒地型牧草を活用した TMR となっております。

平成 30 年度の生産実績は、販売品として 70 t、試供品を希望する畜産農家への試供分として、水の恵み TMR1 号 120t、水の恵み TMR2 号 60t を生産しております。

#### (5) その他

作業時の安全確保や機械の保守管理の徹底を図るために、定期的なオペレーター研修を J A 菊池・メーカーに協力をいただき実施し、技術、能力の向上に取り組みました。